

国立台中科技大学

長期留学報告書

学校正面



100年記念式典



卒業式

2019.8. 31～2020.6. 27

1810700 経済学部 経済学科

難波莉子

1. 留学先について

1.1 【国・地域】 台湾・台中

台湾の中間で、都市である台北から新幹線で一時間半、高速バス・鈍行電車で二時間半の場所に位置する。人口は 2.82 万人(2020)と台湾第二位で面積は 2,215 km²である。台中にある逢甲夜市は台湾一大きい夜市とされる。日本人が大勢住んでいる地区があり、その周辺は日本式のレストランが多い。難点はバイクが台湾一多いとされ、空気が少し汚い点である。



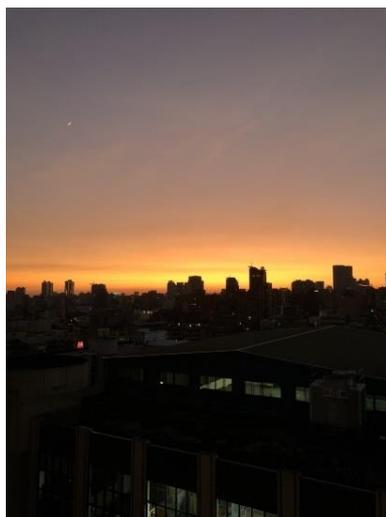
台中市の夜景



台中駅

1.2 【留学先大学】 国立台中科技大学

1919年に創設し、留学期間にちょうど100周年を迎えた。学生数は約22,435人である。5学部26学科からなる学校である。敷地面積は狭いが五つある学部棟はどれも八階以上ある。さらに敷地内に学生寮も完備されている。大学と付属して高専もあり、高校生の年代の子もいる。



(左)寮から見た
グラウンド
(右)教室から見た
街並み

1.3 【専攻】 応用日本語学科

日本語との翻訳、通訳を学ぶだけでなく日本経済や国際経済、貿易、ビジネスについても学ぶ。教科書は日本語を用いることが多いが授業は中国語で進められる。

1.4 【留学期間】 2019年9月～2020年6月(一年)

9月	前期授業開始
10月	100周年記念式典(四日間の連休)
11月	二週目 中間テスト
12月	
1月	元旦休み 二週目 期末テスト 冬休み開始
2月	半ばから後期開始予定が新型コロナウイルスの関係で二週間延期
3月	後期開始
4月	一週目 五連休 四週目 中間テスト
5月	
6月	四週目 期末テスト 夏休み開始

2. 留学への経緯

高校時代から中華圏留学に興味があり、学部二年の後期にしてそのチャンスを手にした。個人的に中華の文化や人柄に興味があり、それを肌で感じたかったとともに交換留学先でも経済について学べることから学部二年の後期からの留学を決意した。さらに大学生活の一年を海外で過ごすことでより充実した生活が送れると考え、一年間の留学に至った。

台湾を希望した理由は、親日であるということ、日本との連絡のやり取りに不便がないこと、日本からのアクセスの良さ、治安の良さが挙げられる。特に国立台中科技大学を選んだ理由としては、台中は台湾一気象が良く、台北や高雄へのアクセスがいいことである。

補足

1月	留学を検討し始める
3月	大学へ留学申し込み(志望理由、成績)
4月	正式決定
8月	ビザ申請
8月末	留学開始

3. 1 留学中の授業

国立台甲科投大 108 学年度 第 2 学期 (2020 年 2 月～2020 年 6 月) 難波莉子
 学科: 交換留学生 クラス: 交換留学生 学籍番号: 1A20190005 名前: 難波莉子

曜日	時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 限目	08:10 09:00		日本語翻訳 日四甲 3806 葉東哲 2/25-6/23			中国語チャー ター 張明強		
2 限目	09:10 10:00		日本語翻訳 日四甲 3806 葉東哲 2/25-6/23			中国語チャー ター 張明強		
3 限目	10:10 11:00	体育 日一 1 楊士欣 3/2-6/23	中国語チャー ター 林佳儀	中国語チャー ター 劉怡青	日本市場行 動 日誌二 3403 蔡立仁 2/27-6/26			
4 限目	11:10 12:00	体育 日一 1 楊士欣 3/2-6/23	中国語チャー ター 林佳儀	中国語チャー ター 劉怡青	日本市場行 動 日誌二 3403 蔡立仁 2/27-6/26			
5 限目	13:25 14:15	中国飲食文化 史 應麗三 A 3304 魏敏麗 3/2-6/23	日本政治と外交 日三 1/日三 A 3606 葉秋蘭 2/25-6/23	国際企業管理 日三 1/日三 A 3611 楊家源 2/26-6/24	日本経済研究 日誌二 3403 李嗣森 2/27-6/26			
6 限目	14:20 15:10	中国飲食文化 史 應麗三 A 3304 魏敏麗 3/2-6/23	日本政治と外交 日三 1/日三 A 3606 葉秋蘭 2/25-6/23	国際企業管理 日三 1/日三 A 3611 楊家源 2/26-6/24	日本経済研究 日誌二 3403 李嗣森 2/27-6/26			
7 限目	15:20 16:10			中日筆談 日三 A 3611 楊家源 2/26-6/24				
8 限目	16:15 17:05			中日筆談 日三 A 3611 楊家源 2/26-6/24				
10 限目	18:10 19:00		生活華語中級 應中二 13905 洪千雲 2/25-6/23					
11 限目	19:10 20:00		生活華語中級 應中二 13905 洪千雲 2/25-6/23					

左の時間割は後期のものである。

一限は 8 時 10 分から始まり、一コマ 50 分×2 で一つの授業になる。

全学年の日本語学科の授業から好きな授業を履修することができる。基本的に前期との通年の授業がほとんどなので時間割が大きく変わることはない。一般科目は先着順なので交換留学生は空きがあれば履修することが可能。期末テストはみなと同じ内容。高学年の授業ほど発表が多くなる。

週に二回チャーターが行われる。希望すれば三回に増やしてもらえる。

中国語の授業は火曜日夜 6 時からと決まっている。ここではほかの国の学生と一緒に授業を受ける。授業自体は中国語で進められるが先生はゆっくりと話してくれるので問題ない。時折、英語が用いられる。期末テストは発表であり、国際課の先生などを招いて行われる。



↑ 実際の発表の様子



3.2 課外活動について

国際課が募集する活動に何度か参加した。市場を回ったり、街の歴史について学んだりした。これは完全申込制で申し込み忘れると参加できない。



左の写真は、台中にある第二市場ツアーに参加したときの写真。

台湾人、韓国人、マレーシア人、韓国人が写っている。このように国際課のイベントなだけあって、様々な国の人と交流できる。

会、卒業式がある。

さらに国際課では、誕生日会やクリスマス



この写真はちょうどクリスマス会の写真である。誕生日だったのでケーキをもらった。

さらに各自プレゼントを用意し、くじを引いて交換し合った。親元を離れている分、こういったイベントは本当に楽しかった。普段は関わりの少ない学部の人とも関わるチャンスである！

また、国際課だけでなく、日本語学科でも年末にイベントがあった。



日本語学科の留学生や華僑の学生を中心に美味しいご飯を食べたり、ビンゴ大会が行われた。

本来ならば家族と過ごすはずの年末だが、留学に来ていることによってそれが叶わない。そういった配慮は含まれているように思えた。

4 留学中の生活

4.1 お金について

生活費(食費、交際費)	月三万円～四万
ビザ申請代	約一万円
飛行機代(往復)	四万円(帰りは新型コロナウイルスのため割高)
寮代(前期後期)	約七万円(10,500 元)
諸々雑費含め年間トータル	約 60 万円

4.2 語学について

留学の申請にあたり語学レベルの条件はなく、現地で生活しながら学んでいくという形であった。また日本語学科所属ということもあり、先生方やクラスメイトがたくさん助けてくれた。最初は語学もわからない、生活も慣れないといった状況でストレスが爆発しそうでしたが時間は嫌でも進んでいき、自分が耐えて一生懸命勉強するしかないという環境になっていった。そういったなかで机に向かって勉強する時間も大切だが会話が一番大切であると改めて思った。

授業と同時進行で中国語を学ぶことはつらかったが、それも最初だけで、勉強した分だけ自分の知識となった。ある程度慣れてからは自分から遊びやご飯に誘ったりして、中国語力を高めるとともに友達関係も大切にした。後期からは全く日本語に頼らず、生活することができた。ルームメイトは台湾人とマレーシア人で容赦ない中国語。時にくじけそうになったが、彼女たちはゆっくりと話してくれ、私の言葉を懸命に理解しようとしてくれて、本当に感謝しかない。大勢の助けにより中国語が成長したし、なにより周りから褒められることがうれしかった。

しかし、留学していれば自然と語学力が上がるというのは間違いだと思う。学んだことを実際に生かさなければ身につかないため、友人関係も大切にすることでさらなる成長が見込める。

具体的には、翻訳や中国語の授業でのプリントをひたすらやったり、個人で持って行った参考書、先生から個人的にお願いして問題を作ってもらったりしていた。現地で新たに単語集を買ったりした。

4.3 手続きについて

ビザの続き、携帯電話の契約、銀行口座の開設、学校の手続きについて順番に紹介する。

まずは、ビザ。日本の台湾大使館に行き、ビザを仮申請をする。このとき、県立大の在学証明書、留学先の入学許可書、写真などが必要になる。申請額は 6,900 円で翌日発行で

ある。当日発行にするとプラスでお金がかかってくる。留学開始後、15日以内にビザを有効化し正式な在留許可を得る必要がある。これは他の留学生と一緒に行く日にちが設定されているので心配ない。

携帯電話の契約については満20歳以上でないと契約できない。私は当時、まだ20歳を迎えていなかったのが代わりに契約してもらった。携帯料金は月々499円(日本円で1750円)でGB使い放題である。しかし台湾人曰く、この金額は少し高いらしい…。もっと安くできるのだとか…。パスポート、居留書が必要。

銀行口座開設については、これも満20歳以上でないと契約できないと言われた。これに関しては特に急いでいなかったのが誕生日を迎えてから再び訪れた。クラスメイトと一緒についてきてくれた。手続きの際は、居留書、フルネームのハンコ(現地で作った)、携帯番号などが必要。

学校の手続きについては、伝えられた書類と日付を守っていけば問題ない。寮費は学期ごとに10,500円(日本円で約36,750円)支払う。夏休みや冬休み期間は住む日数によって金額が変わる。

4.4 治安について

台湾ではテロなどの話は全くない。モノを取られたこともない。学外で財布やイヤホンをとったことがあったがそっくりそのまま戻ってきた。日本並みに治安はいいかもしれない。ただ、観光地や夜市は人も多く、狭いので気を付けなければいけない。

バイクの数がとても多く、交通の面では気をつけなければならない。

4.4 日常生活について

大学のキャンパス内にある寮に住んでいたため、学校周辺で一日を過ごしていた。正門前には一中街という夜市みたいな場所があり、ご飯はだいたいそこで食べる。学食はない。寮には冷蔵庫を電子レンジもないので毎日外に買いに行かなければならない。また、マツモトキヨシやその他薬局、デパートも近くにあるので買い物や食事に不便は感じない。台中市は交通カードがあればバスが10キロ圏内無料で数も多いのでどこに行くにもアクセスがいい。貸し出し自転車も30分間無料である。学生証は交通カードにもなる。

4.5 寮について



左が寮の様子である。四人部屋で下が机、上がベッドとなっている。奥に洗濯を干す小さいスペースがあり、手前には、下駄箱、着替えるスペースがある。部屋の中は基本スリッパ。エアコンは、共同のカードにお金をチャージして使う。ネット環境もある。

ルームメイトについて、前期は日本人一人、台湾人二人。後期は台湾人一人、マレーシア人二人であった。基本前期と後期でルームメイトは変わらないが私の場合、特例であった。大掃除は一学期一回。とても厳しい…。さらに退去するときにも掃除しなければならない。



こちらは共同洗面台とシャワー室である。洗濯機は一回 20 元かかる。台湾人は基本手洗いしている。時代が止まっているようだった…。洗濯機の奥に干すスペースもある。ここの掃除は毎日掃除のおばちゃんが掃除してくれる。

男子の場合、部屋にシャワーとトイレがついており、週に一回掃除の時間があるとか…。詳しくはわからないが女子と部屋のつくりもルールも全く違う。

4.6 休暇について

基本土日休みである。休みは友達と遊びに出かけたり、ルームメイトとご飯を食べに行ったりしていた。

年越しは台北 101 を見に行った。あれはぜひ見に行っておきたい！

冬休みは寮には住まず、友達に家に住まわせてもらった。

旧正月は、友達の家族の家にお邪魔する予定だったが、風邪をひいてしまい叶わなかった。とても悔しい思い出だ。元気であれば、台湾の伝統的な料理やお年玉ももらえていたかもしれない…。

4.7 日本人の繋がり

台中科技大学で日本人は、交換留学生、正規の学生合わせても 10 人もいなかった。時々と一緒にご飯を食べたりした。台中には日本人が多く住む場所があり、周辺には日本食のレストランも多くある。そこにいけば、日本人とのつながりも持てるかもしれない。

5 留学で感じたこと

5.1 習慣の違い

- 食事のマナーの面では多くある。箸をきちんと持てる人は少なく、音を立てて食べる人もいる。ゲップもよく聞いたものだ…。日本人としてついつい気になってしまいがキリがないので慣れるしかない。レストランなどで清潔感を感じられないこともあるがここは日本ではないと割り切ったほうがいい。
- 授業中の飲食は OK。しかし、バス・電車などの公共交通機関での飲食は罰金が科せられる。
- 服装も半そで短パンなどシンプルが基本。メイクをしている人はあまりいない。日本人のようなきちんとした習慣がないので楽ではある。
- トイレットペーパーは基本流してはいけない。トイレットペーパーがないこともしょっちゅうあるのでティッシュは持ち歩いたほうがいい。
- お酒を飲む文化もあまりないので日常飲む人は少し物足りなく感じることもある。
- 基本夜型なのでお店の開店は昼間 11 時が基本。開きは遅いがその分遅くまでやっている。

5.2 社会の違い

台湾は中国と常に緊張感があり、若者であっても政治への関心が強い。大統領選挙の際には、国全体がピリピリしているように感じた。それだけ国を大切に思い、行動に移せることに感動した。また、香港への応援のメッセージなども学校や街中で見かけることも多かった。国同士の関係や苦しんでいる国があるということなど世界に目を向け、関心を持っている人も多く、私も意見も求められることが多々あった。しかし、私はそのようなことを考えたことはあっても意見も持つと政治的意味があるように思われるようで発言はあまりしなくなかった。それでも発言することに意味があり、自分自身を表現するためにも自信をもって、信念を貫くことが大切であると感じた。平和な日本では絶対にできない経験であり、刺激的だった。

5.3 留学前後での変化

上記と被るが、行く前は正直、政治や世界情勢などに興味はなかったが留学してみて、台湾人は政治に積極的に参加するし、しっかりと自分の意見を持っていると感じ、私も自分の国についてしっかり関心を持つようになった。何事にも自分の意見を持って、積極的に発言している台湾人は私にとってとても刺激的で私もこうなりたいと思った。また、新型コロナウイルスが流行したことにより、今できることはすぐに行動することが大切であり、困ったときこそ助け合いが必要だと感じた。同じアジアであるからか価値観が 180 度変わったとかはないが台湾人は一人ひとりが自立しているように感じた。見習うべきところは多くあった。

5.4 今後この留学をどのように生かすか

台湾では日本について知っている人も多くあったが日本人が台湾について知っていることは少ないように感じたため、日本でもっと台湾について発信できたらいい。中国語や留学に興味がある人に少しでも力になりたい。卒業後はぜひ台湾に就職したい。

5.5 留学を終えての感想

最初は高校の時からずっと中華圏への留学への留学が叶いととてもうれしく思っていた。しかし、私は中国語が話せるわけでもなく、ただ漠然とした思いだったので具体的には何も想像できなかった。台湾に行き、最初は何もわからず、言葉も通じずこれからどうなっていくのだろうと思っていた。最初は必死に勉強して、あまり友達と遊んだりしなかった。だんだん話せるようになり、コミュニケーションもとれるようになったので自分からご飯に誘ったり、出かけに誘ったりした。これがほんとうに正解だったと思うし、言語を学ぶ上で一番大事なのはやっぱり話すことだと感じた。100%聞き取れるわけではし、話せるわけではない。しかし、台湾人はみな冷たくしたりしないで私のことを理解しようとした。本当に感動した。私に期待してくれている分、ほんとうに頑張ったし、みんなのことを理解したいと強く思った。おかげで日常生活の中で不便なく話せるようになったし、親友と呼べる友達もできた。大学二年後期・大学三年前期という大学生活において一番大事な時期にこの台湾留学を選んだが後悔は微塵もしていない。多くの友達、先生、ルームメイトに支えられながらこの一年を楽しく過ごすことができた。本当に最高だった！中華圏への留学はあまり人気が無いように感じるがこれからは絶対中国語は大事になってくる。中国の歴史や経済も本当に面白いものがある。もっとみんなに知ってほしいし、私が広めていきたい。

私にとってかけがえのない経験・思い出になった。

6 まとめ

留学はお金や時間がかかるものだがそれ以上に得られるものは計り知れない。
少しでも行きたいという気持ちがあるなら挑戦すべきだ。留学は自由に好きなことができる大学生の特権ではないか。人生は一度きりだ。

萬事如意



すべてうまくいく

